

安東学区老人クラブ連合会について

安東学区老人クラブ連合会（学区老連）は、次の3つの単位老人クラブ即ち、寿美令会（会員142名）弘億友遊会（会員144名）相田第一相睦会（会員42名）で構成されています。

老人クラブでの活動は社会奉仕、学習、健康増進の3つのカテゴリーに適合することを旨としていますが、これらの活動推進の主体は各々の単位クラブが担っていて、学区老連は基本的には安佐南区老人クラブ連合会（区老連）と単位クラブとを結ぶ情報流や活動推進の結節点の役割を果たしています。

しかしながら、近年は学区老連に地域貢献的な役割を求められることが増えてきて、この面に於いては上記3者の連合体としての活動を意識的に進めていくことにしています。

例えば、毎年秋に催される「安東児童館 三世代交流ほのぼのまつり」に対して、主催者の一員として人と資金の両面で支援しており、三世代が直接触れ合える機会と捉え重視しています。さらにこれから、重点的に進めていかねばならないと考えているのが老人クラブで言う「友愛活動」です。

これは近い将来の超高齢化社会の到来を見越して行政が様々な対応を高齢者地域支え合い事業として打ち出してきているものと、その狙いや中身や施策が相通じるものなので、横断的な連携を図り普遍性実効性を高めていければと考えます。

そのための情報や経験の共有化を進めていく場として連合体を活用できると考えています。

安東学区老人クラブ連合会 会長 諸富 忠敬

「あいさつ」で笑顔あふれる安東学区

安東学区社会福祉協議会では、明るく住みよいまちづくりの一環として安東小PTA、安東小学校、学区社協のボランティアグループが合同で、毎月第2水曜日に児童の登校時間に合わせてあいさつ運動を行っています。

この運動は、次世代を担う子どもと地域住民が、心のふれあいを通じて交流を育むと共に、住民同士の輪（和）の拡がりを実践しております。

また、こうした行動を通じて地域の宝物である子どもを、地域みんなで育てることに繋がると考えます。

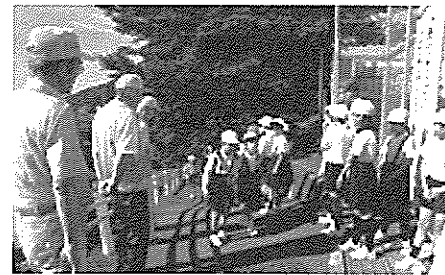
安東学区社会福祉協議会では、今後このあいさつ運動を拡大し各地域で実施したいと考えております。

実施に当たっては地域の皆様のご協力が不可欠ですが、子ども見守り隊の組織拡大など各自治会・町内会長さんと協議を進めながら方法を具体化したいと考えております。

少子高齢化の時代が進む中で、住民相互のつながりが希薄化していることが社会問題となっており、地域社会の維持継続の危機とまで言われております。

あいさつは、人と人をつなぐ重要な手段です。子どもから大人まで地域の中でお互い助け合い、笑顔で暮らせる安東学区を実現するために是非皆様方のご理解、ご協力をお願いいたします。

安東学区社会福祉協議会 会長 藤本 英之



安東学区

第24号

社協だより

広島市安佐南区安東学区社会福祉協議会 編集 広報委員会

新年度早期スタートを模索 -高齢者地域支え合い事業-

「お隣さん！元気ですか！」 - 隣近所同士が顔を合わせばあいさつをする地域を目指して。

安東学区社会福祉協議会は、子どもの登下校時の見守り活動、また、防犯・防災を主体とする地域の見守り事業を展開してきましたが、加えて2019年度からは高齢者の見守り - 「高齢者地域支え合い事業」を展開していくための模索しております。

共助の醸成が不可欠

未曾有の高齢化社会を迎える日本。厚生労働省が昨春発表した推計では、第二次世界大戦後のベビーブームで生まれた、いわゆる団塊の世代が全員75歳以上になる2025年の年度末には、要介護認定者だけでも770万人を超えとなる見通しとか。要介護認定者、生活機能の低下や慢性疾患等を抱える虚弱高齢者、80歳以上の高齢者、その他見守りが必要と思われる高齢者等を加えると一体どうなるのでしょうか。防災と同様、これらの支援をすべて公助で賄うことは到底できません。特に共助・自助の醸成が必要となってきます。

そこで、当学区社会福祉協議会は、各町内会・自治会の賛同を得て、早期に「高齢者地域支え合い事業」をスタートしたいと考えております。

準備委でルールづくり

まず、「支え合い事業をやってみよう！」と立ち上げの意向がまとまると準備委員会を設置します。この準備委員会は支え合いネットワークを開始するに当たり、各町内会・自治会の代表者と包括支援センター、行政等で地域の見守り活動に関するルールづくりを行う会議です。準備委員会では、支え合いネットワークの名称や見守り対象者の範囲、住民への周知方法、支え合いのルールづくりなどを協議します。

本格実施は運営委で

準備委員会での話がある程度まとまったら運営委員

会を設置します。これからは見守りネットワークの稼働ということになります。まず、各町内会・自治会でネットワークの広報をし、見守りを要望する人を募集し、登録します。登録者は見守りをしたい協力員を探します。見守り登録者と協力員が見つかったら、「登録兼同意書」に両者からの署名をいただきます。「登録兼同意書」は包括支援センターが管理し、広島市が管理するパソコンに情報を入力、登録します。見守り登録者と協力員には、お互いの住所などが載った帳票が渡されます。登録が完了したら、いよいよ見守りの開始です。協力員による見守りは、①電気の点灯、消灯の有無②新聞がたまっていないかの確認③月1回程度の顔を合わせての声掛けの実施④登録者に何か変化があった時の連絡 - など。見守り登録者が自宅で生活しているかの確認です。ただし、支え合いの見守りは登録者の緊急時の対応が主ではないので、緊急時の対応の是非で協力員に責任が発生することはありません。また、見守り活動時に気になることがあれば、町内会長（自治会長）や民生委員、包括支援センターに連絡してください。

報告は包括支援センターへ

支え合い事業では、協力員から所定の様式の報告書を事務局である包括支援センターへ提出する必要があります。見守り登録者の生活を見守り、報告することで緊急時に備えることができます。また、報告書を基に1年に1回は登録者のお宅へ伺います。自宅訪問での聞き取りはアンケートにまとめるなどして、運営委員会へ情報を提供してもらいます。

積極的な提言を求む

以上の流れでこの事業を展開していきたいと考えております。みなさんのご協力とこの事業に対する積極的なご提言をいただければ幸いです。

安東学区社会福祉協議会 副会長 竹本 久男

ふれあいセンターの現状と今後

「安東学区ふれあいセンター」は安東学区社会福祉協議会の実質的な活動拠点として2012年（平成24年）9月から南部山自治会館（安東公民館南隣り）を借りて開設されています。

現在、ボランティアと民生委員の協力で毎週水曜日、金曜日の午前9時から12時（祝祭日は除きます）に相談窓口（TEL082-521-4559）を常設して困りごと・心配ごとに応じています。

2016年（平成28年）10月から広島市が推し進める「住民主体型生活支援訪問サービス」を取り入れてふれあいセンターの活動強化に努めています。下記の表でお分かり頂けますように依頼される困りごとの内容も多種多様で増加の傾向にあります。また、依頼件数も年々増えていきます。

活動の趣旨が少しずつ理解され、気軽に相談して頂けるようになりました。困りごと・心配ごとについては、解決できるか否かは分かりませんが、まずは相談して頂ければと思います。

ふれあいセンターに登録しているボランティア「笑顔サークル安東」で解決できない場合は、専門の業者を紹介し、場合によっては、専門職の団体や行政にお繋ぎ致します。困りごとの協力依頼（ボランティア派遣）の負担金額は作業内容に関わらず1件につき500円です。

今後の課題は、ますます増える依頼件数に対応できるボランティアの人数を増やし、組織を強化することです。現在は、高齢者の困りごと相談と支援活動が中心ですが、今後は障がい者の困りごと相談や支援活動、子育て世代の育児相談や支援活動等に取り組める体制を作りたいと思います。

誰もが笑顔で安心して暮らせる地域づくりの為には、住民各位の自主的な参加と活動への協力が不可欠です。自分に出来ることを空いている時間に行動に移していただくことで、安東学区全体が活力あふれる地域に変わります。皆様のお力をお貸しください

（ふれあいセンターの支援活動に協力して頂ける方は、各自の自治会・町内会の会長さまに連絡して下さい。宜しくお願い致します）

平成31年3月15日現在で「安東学区ふれあいセンター」に相談された相談内容と件数です。

NO	困りごと依頼の内容	H26	H27	H28	H29	H30
1	庭の草むしり	2	8	10	26	30
2	植木の剪定（梯子を使う高所の作業は無理）	5	4	11	20	24
3	簡単な修理事業（家具・扉・屋外作業を含む）	3	11	7	6	20
4	換気扇の清掃作業		2	3	2	4
5	網戸の張替え			4	6	6
6	電球の交換			2	5	3
7	階段・トイレの手すり取り付け			3	1	2
8	（資源ごみ）ゴミ出し			1	7	4
9	悩みごと相談（車いすの貸し出し含む）	2	2	4	4	6
10	傾聴訪問		1	1		
11	買い物の代行等	2	3	10	17	17
	合計件数	14	31	56	94	116

安東学区地域福祉推進委員 永中 憲成

ビンゴゲームを行いました

3月3日（日）に予定していましたが、毎年恒例の健康ウォーキングが雨天となり、安東公民館でビンゴゲームを行いました。当初の予定では、公民館を出発し、緑井の毘沙門堂を折り返すコースを予定していましたが、天候の悪化により変更になったものです。

ビンゴゲームが始まると、カードを手にして緊張が走ります。

最初の番号が読みあげられると「無いの～」

「あったあった!」、ゲームが進行するにつれて

「わしのカードは悪いの～」

「リーチが3つもあるのに次が出んよの～」

早々とビンゴの人が出ると「運がええ人よの～」

など色々な声が聞こえる中、あっという間に

楽しい時間が過ぎました。

参加者は145名で、2階の研修室は満員の状態でしたが混乱も無く無事終了し、終了後に女性会による美味しいぜんざいを頂きました。

安東学区社会福祉協議会では、地域の皆さんが一堂に集い、住民相互の繋がりを深める取り組みを色々な形で実施しておりますが、今回も多数のご参加をいただき有難うございました。

なお、今回の行事にあたり安東学区子ども会育成会、安東女性会の皆様には大変なご協力を厚くお礼申し上げます。

安東学区公衆衛生推進協議会 会長 藤原 敏晃



安東たのしくうたおう会

『安東たのしくうたおう会』は、「声を出して元気になろう」という目標を持ち、毎月第3水曜日、午前10時から11時30分ふれあいセンター（南部山自治会館）に集合しています。

始めに頭と体を少しほぐし、季節の歌を中心に歌っています。歌の中にセリフがあるとお手本を示してくださる方、難解な歌詞があるとスマホで調べてくださる方、曲についての知識を披露してくださる方、いろんな個性が光り、皆で「へえ～」と感心する場面もあります。

最近では、参加者さんからのリクエストがあり、輪唱や二部合唱にも挑戦しています。

「声を出し合うことが第一目的なので上手下手は、あまり問題ではありません。」ということで、昨年は2回集まっただけなのに早くも10月末のサロン交流会で初お披露目をしました。多少の緊張も、皆一緒なら程よい刺激になりました。次は6月2日（日）にある安東公民館まつりの予定です。

声を出して元気になりたい方、ぜひお立ち寄りください。

安東たのしくうたおう会 為汲 玲子